

◎おきなわの畜産

令和元年 7 月

沖縄県農林水産部畜産課

はじめに

本県の畜産は、亜熱帯の温暖な気候環境のもと、それぞれの地域の特性を活かし、生産者と関係者が緊密に連携した各諸施策の推進により、本県農業の基幹部門へと飛躍的に発展してまいりました。平成29年次の農業産出額は1,005億円でその内畜産部門は457億円で農業産出額の45%を占め、本県農業の基幹部門として、今後も安定的発展が期待されております。

特に肉用牛においては、産出額が228億円とさとうきびを抑えて県農業のトップにまで成長しており、飼養頭数も7万3千836頭と5年連続の増加と基幹作物として着実に発展してきています。

養豚は、飼養戸数・頭数ともに減少傾向が続いておりますが、県内と畜頭数は33万7千760頭と4年連続で増加しており、優良畜種導入、飼養環境の改善など各取り組みの一つ一つが生産性の向上につながってきていると考えております。

また、山羊では、飼養戸数・頭数ともに大幅に増加しており、山羊生産組合も19組合に増え、各地域で盛り上がりを見せております。

酪農や養鶏につきましては、素牛価格の高騰や生産過剰に伴う価格低迷など、依然として経営を取り巻く環境は厳しいと認識しております。

このような中、県産畜産物の海外輸出は豚肉を中心に増加しており、輸出のさらなる増加とインバウンド需要の取り込みが期待されます。

しかしながら、畜産をめぐる情勢は、TPP発効や日欧EPA調印など、先行き不透明な事が多い中、高齢化の進展、担い手不足、施設機械の老朽化に伴う生産性の低下、畜産環境問題、ブランド化や地産地消による消費の拡大、国内内外における家畜伝染病の発生など多くの課題や懸念事案が山積しております。

このような状況の中、畜産経営を安定的に継続・発展させるための生産基盤の整備など各施策を推進するとともに、消費者ニーズを踏まえたブランド化の推進、需要の拡大など生産者・関係機関と連携の下に積極的に取り組みんで参りたいと存じます。

引き続き、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に位置づけられた持続的な農林水産業を目指して、なお一層の畜産振興へのご理解とご協力をお願いいたします。

なお、この小冊子が本県畜産の概要を理解するうえで手助けとなり、広く皆様方にご利用いただければ幸いです。

本冊子の作成にあたりましては、ご多用中にもかかわらず、関係団体の皆様から多大なご協力を賜りましたことに対しまして、深くお礼を申し上げます。

令和元年 7月

沖縄県農林水産部畜産課 課長 仲村 敏

目次

I. 農業および畜産の概要

1. 農業の概況

- (1) 農業人口と農家戸数 1
- (2) 耕地面積の推移 1
- (3) 農業・畜産産出額 2

2. 畜産の概要 3

- (1) 肉用牛 6
- (2) 酪農 8
- (3) 養豚 10
- (4) 養鶏 12

II. 家畜・畜産物の流通

- 1. 概要 15
- 2. 沖縄県内家畜市場 16
- 3. 沖縄県内の食肉センター設置状況 18
- 4. 畜種別と畜頭数および技肉重量 19
- 5. 格付状況 20
- 6. 畜産物の流通 23
- 7. 生産量と輸入量 25
- 8. 乳業工場一覧 26
- 9. 食鳥処理場の概要 26

III. 配合・混合飼料の流通

- 1. 概要 27
- 2. 配合・混合飼料の流通量の推移 28
- 3. 配合飼料流通価格の推移（県内主要銘柄、本島価格） 29

IV. 草地開発

- 1. 概要 31
- 2. 飼料作物の作付状況 32
- 3. 草地開発整備事業実績 34

V. 畜産基盤の整備

- 1. 概要 35
- 2. 沖縄県における畜産基地建設事業の実績 36
- 3. 畜産基盤再編総合整備事業・畜産担い手育成総合整備事業 37
- 4. 補助事業による共同利用牛舎の整備状況（H12～H16） 39
- 5. 自給飼料（飼料増産）関係補助事業（H13～H17） 40
- 6. 自給飼料（飼料増産）関係交付金事業 41

VI. 畜産経営	
1. 概要	43
2. 畜産経営技術改善指導事業	44
3. 肉用牛肥育経営安定特別対策事業	46
4. 畜産関係資金	47
5. 畜産経営関係リース事業	50
6. 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業 (畜産クラスター事業)	53

VII. 畜産環境	
1. 概要	55
2. 環境保全対策	56
3. 畜産経営環境保全対策事業の実施状況	58
4. 補助事業による共同利用豚舎の整備状況	61
5. 地域畜産振興事業による畜産関係施設の整備事業	61
6. リース事業による畜産環境対策	62

VIII. 家畜の改良	
1. 概要	69
2. 家畜の改良目標	70
3. 家畜改良関連事業	72

IX. 家畜衛生	
1. 概要	75
2. 家畜防疫状況	76
3. 家畜伝染病発生状況	79
4. 牧野ダニ侵入防止対策事業	80
5. オウシマダニ撲滅達成状況	81
6. 家畜伝染病に係る沖縄県対策本部設置要綱、要領等	82
7. 平成 29 年度沖縄県特定家畜伝染病防疫実働演習について	83

参考資料

補助事業関係

1. 酪農関係事業	85
2. 補助事業による共同利用牛舎の整備状況 (S51 ~ H12)	86
3. 自給飼料関係補助事業 (H7 ~ H17)	88
平成 30 年 12 月末家畜・家きん等の飼養状況調査結果	101
畜産関係団体一覧表	106

I 農業および畜産の概要

1. 農業の概況

(1) 農業人口と農家戸数

本県の人口は、1,451 千人となっており、世帯数は 596,401 世帯となっている。

(沖縄県統計課 平成 31 年 3 月 1 日現在推計人口)

産業別就業者数においては、第一次産業者数の全産業に占める割合は、4.1%となっている。

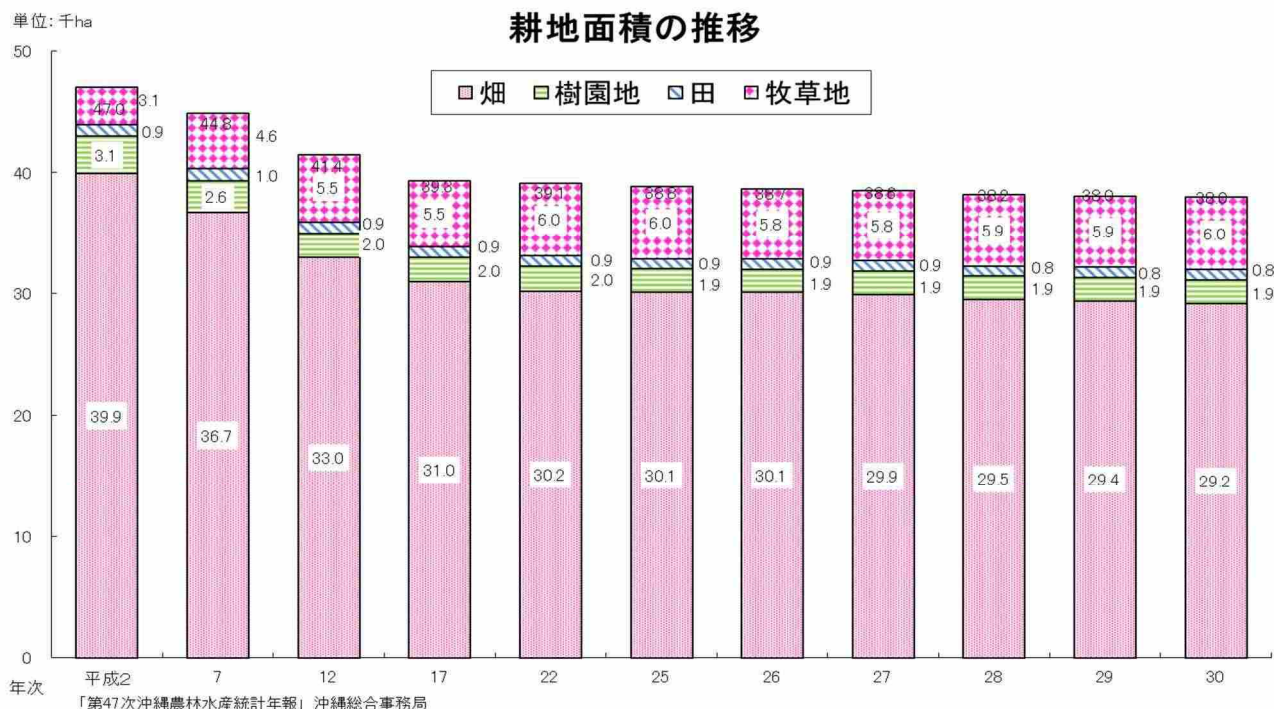
産業別就業者数の推移

単位:千人

年	区分	全産業	第1次産業	第2次産業	第3次産業
25年	実数	642	32	100	503
	構成比		5.0%	15.5%	78.0%
26年	実数	645	29	102	510
	構成比		4.4%	15.4%	76.8%
27年	実数	664	30	101	521
	構成比		4.4%	14.9%	76.7%
28年	実数	679	32	104	535
	構成比		4.6%	15.1%	77.4%
29年	実数	691	30	102	552
	構成比		4.2%	14.4%	78.1%
30年	実数	707	29	105	563
	構成比		4.1%	14.9%	79.6%

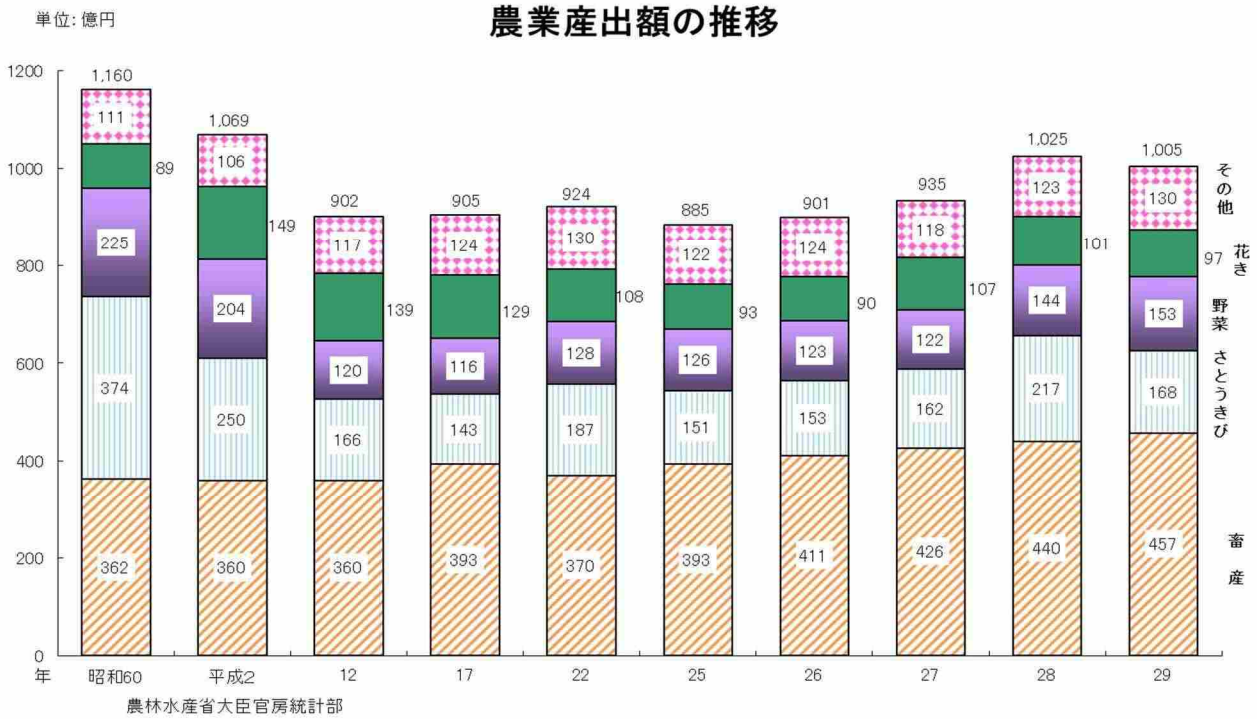
(2) 耕地面積の推移

耕地面積は、平成 2 年以降毎年減少傾向にあるが、その中で牧草地はおおむね現状維持となっている。

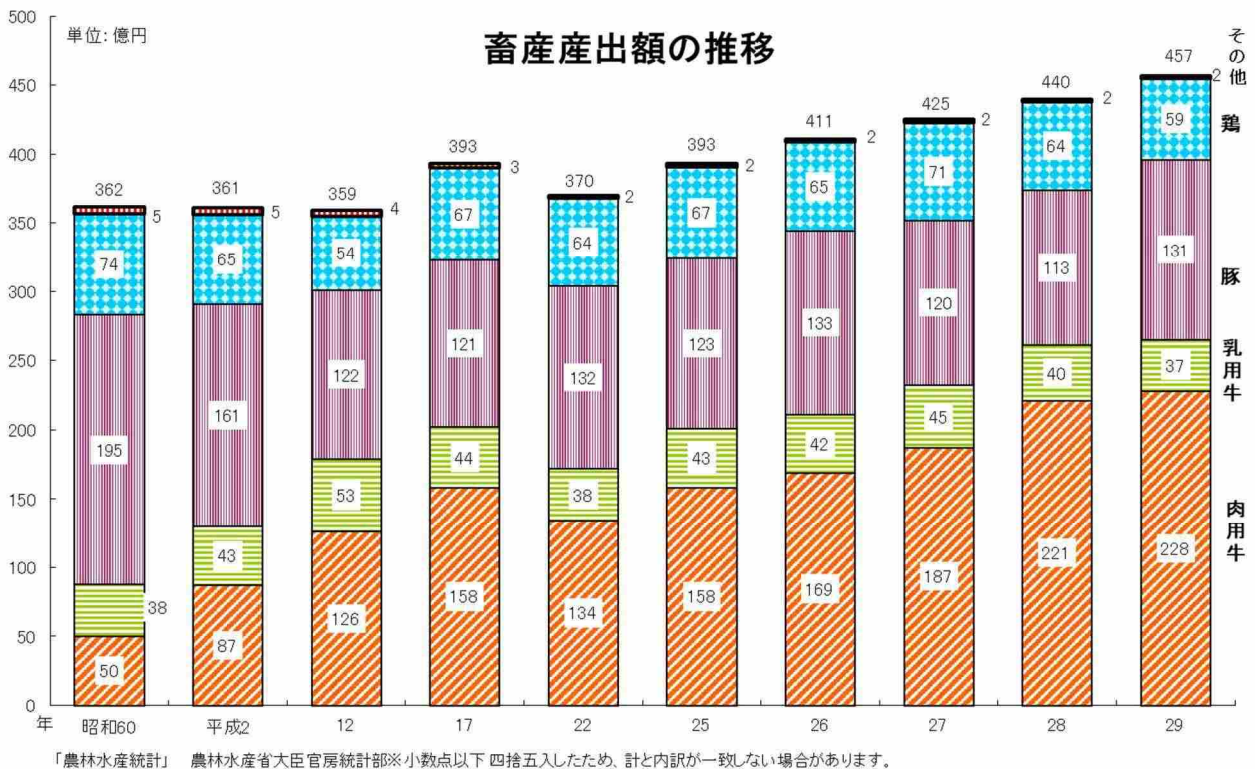


(3) 農業・畜産産出額

本県の農業産出額は、平成 29 年は 1,005 億円で、そのうち畜産は農業全体の約 45.5%を占めており、引き続き農業の基幹的部門となっている。



平成 29 年の畜産産出額は 457 億円で、前年に比べ 17 億円増加した。内訳では肉用牛が最も多く全体の 49.9%を占め、次いで豚が 28.7%、鶏は 12.9%、乳用牛は 8.1%となっている。



2. 畜産の概要

本県の畜産は、温暖な亜熱帯気候を生かし、規模拡大、経営基盤の強化が図られてきたが、近年、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生、食肉偽装表示問題等から、家畜伝染病に対する防疫体制の強化や食の安全性の確保が求められている。その一方で、T P P問題や配合飼料価格の高止まりなど、畜産経営にとっては、厳しい状況におかれている。

家畜飼養戸数の推移

単位：戸

	S60	H2	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30
肉用牛	4,787	4,111	3,800	3,472	3,165	3,163	3,134	2,882	2,685	2,636	2,551	2,489	2,444	2,384
乳用牛	212	189	165	146	123	93	82	85	81	83	79	73	70	66
豚	2,193	1,072	660	483	349	381	381	367	358	344	328	310	288	273
採卵鶏	464	399	603	520	536	519	501	441	445	421	391	352	315	297
ブロイラー	49	30	22	22	28	21	22	27	26	28	26	24	23	23

「12月末家畜・家さん等の飼養状況調査」県畜産課

家畜飼養頭羽数の推移

単位：頭、千羽

	S60	H2	7	12	17	22	24	25	26	27	28	29	30
肉用牛	40,705	46,002	66,392	80,491	78,219	83,512	73,807	69,966	70,024	70,487	71,956	73,134	73,836
乳用牛	8,352	9,232	9,065	7,661	6,436	5,027	4,827	4,731	4,819	4,375	4,300	4,348	4,241
豚	323,575	317,303	315,487	298,657	240,524	248,275	224,203	219,742	210,832	210,863	211,452	210,756	206,828
採卵鶏	1,512	1,514	1,317	1,614	1,474	1,446	1,541	1,594	1,553	1,439	1,459	1,445	1,369
ブロイラー	670	990	850	835	741	850	648	697	634	595	583	617	574

「12月末家畜・家さん等の飼養状況調査」県畜産課

H31 年度 種雄牛候補牛



H31 年度 種雄牛選抜牛



茂北福

ゲノム育種価に裏打ちされた能力を発揮し、脂肪交雑の育種価は歴代1位。上物率94.4%！

地域別家畜飼養戸数・頭数

(単位：戸、頭、千羽)

		20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
肉用牛	北部	戸数	412	412	414	370	371	332	343	326	321	315	313
		頭数	16,269	16,126	15,956	14,889	13,721	12,456	12,297	12,773	13,991	14,415	14,461
	中部	戸数	338	339	335	287	284	279	273	271	264	261	271
		頭数	6,757	6,784	6,487	5,954	5,870	5,765	5,701	5,827	5,883	6,005	6,435
	南部	戸数	360	352	352	335	327	323	303	308	302	305	305
		頭数	9,674	10,243	10,391	9,589	8,944	7,946	7,872	8,440	8,806	9,023	9,276
	宮古	戸数	1,204	1,195	1,277	1,187	1,159	1,042	1,013	957	916	865	811
		頭数	18,094	17,966	17,313	15,869	15,249	14,611	14,716	14,198	13,832	13,790	13,934
	八重山	戸数	804	808	785	761	741	709	704	689	686	698	684
		頭数	35,310	33,749	33,365	31,958	30,023	29,188	29,438	29,249	29,444	29,901	29,730
計	戸数	3,118	3,106	3,163	2,940	2,882	2,685	2,636	2,551	2,489	2,444	2,384	
	頭数	86,104	84,868	83,512	78,259	73,807	69,966	70,024	70,487	71,956	73,134	73,836	
乳用牛	北部	戸数	15	15	15	14	13	12	12	11	10	9	8
		頭数	778	920	783	764	747	748	668	569	547	606	657
	中部	戸数	11	11	11	10	10	11	10	9	8	6	6
		頭数	597	584	602	598	583	598	532	482	488	447	397
	南部	戸数	61	58	59	51	54	51	53	51	47	47	45
		頭数	3,409	3,225	3,275	3,015	3,078	3,015	3,185	2,965	2,929	2,968	2,957
	宮古	戸数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
		頭数	149	184	168	162	145	142	199	131	120	105	0
	八重山	戸数	7	6	7	6	7	6	7	7	7	7	7
		頭数	218	213	199	282	274	228	235	228	216	222	230
計	戸数	95	91	93	82	85	81	83	79	73	70	66	
	頭数	5,151	5,126	5,027	4,821	4,827	4,731	4,819	4,375	4,300	4,348	4,241	
豚	北部	戸数	121	118	154	170	152	150	142	127	124	108	99
		頭数	106,036	114,786	115,943	119,686	107,243	104,444	100,277	102,843	101,828	107,022	106,906
	中部	戸数	105	102	103	95	99	94	87	80	74	72	70
		頭数	45,292	46,040	43,444	43,709	41,327	39,131	38,128	37,965	34,514	35,837	35,129
	南部	戸数	112	106	98	90	90	90	88	91	87	80	74
		頭数	81,758	82,238	81,962	75,967	69,074	69,573	66,084	63,960	69,321	61,403	58,888
	宮古	戸数	15	10	13	12	12	11	11	15	11	12	14
		頭数	1,473	953	963	812	801	675	753	645	515	618	708
	八重山	戸数	12	11	13	14	14	13	16	15	15	16	16
		頭数	3,532	5,961	5,963	5,998	5,758	5,919	5,590	5,450	5,274	5,876	5,197
計	戸数	365	347	381	381	367	358	344	328	311	288	273	
	頭数	238,091	249,978	248,275	246,172	224,203	219,742	210,832	210,863	211,452	210,756	206,828	
採卵鶏	北部	戸数	207	190	218	204	211	199	170	159	145	131	124
		羽数	542,279	517,224	501,793	529,690	539,343	547,151	522,571	486,518	529,258	511,239	508,955
	中部	戸数	107	105	148	134	119	123	116	101	101	87	90
		羽数	164,317	140,498	153,132	169,418	168,705	150,514	166,023	165,973	166,708	171,031	132,777
	南部	戸数	40	42	50	56	46	55	50	46	43	34	34
		羽数	583,663	617,756	704,371	702,238	745,260	816,219	780,834	702,898	683,336	685,717	651,418
	宮古	戸数	50	49	39	34	21	15	13	14	9	11	6
		羽数	32,497	32,251	31,793	30,639	32,254	30,626	34,602	35,300	31,950	33,226	34,250
	八重山	戸数	48	55	64	73	44	53	72	71	54	52	43
		羽数	55,089	55,206	54,920	54,945	54,695	49,182	49,003	47,859	48,132	43,586	41,645
計	戸数	452	441	519	501	441	445	421	391	352	315	297	
	羽数	1,377,845	1,362,935	1,446,009	1,486,930	1,540,257	1,593,692	1,553,033	1,438,548	1,459,384	1,444,799	1,369,045	
ブロイラー	北部	戸数	20	19	17	18	19	19	20	19	18	18	16
		羽数	559,374	606,897	844,020	771,242	641,218	689,520	627,253	589,133	576,864	610,108	566,716
	中部	戸数	4	2		0	2	1	0	0	0	0	0
		羽数	48	52		0	10	5	0	0	0	0	0
	南部	戸数	1	1	2	2	3	3	5	3	3	2	4
		羽数	2,700	2,700	3,000	3,000	3,350	4,350	5,245	5,000	5,000	4,700	5,330
	宮古	戸数				0	0	0	0	0	0	0	0
		羽数				0	0	0	0	0	0	0	0
	八重山	戸数	1	1	2	2	3	3	3	4	3	3	3
		羽数	800	800	2,600	2,300	2,740	2,650	1,650	1,681	1,375	2,225	2,215
計	戸数	26	23	21	22	27	26	28	26	24	23	23	
	羽数	562,922	610,449	849,620	776,542	647,318	696,525	634,148	595,814	583,239	617,033	574,261	

「12月末家畜・家さん等の飼養状況調査」県畜産課

全国的にみた沖縄県畜産の地位（平成30年2月現在）

（単位：戸、頭、千羽）

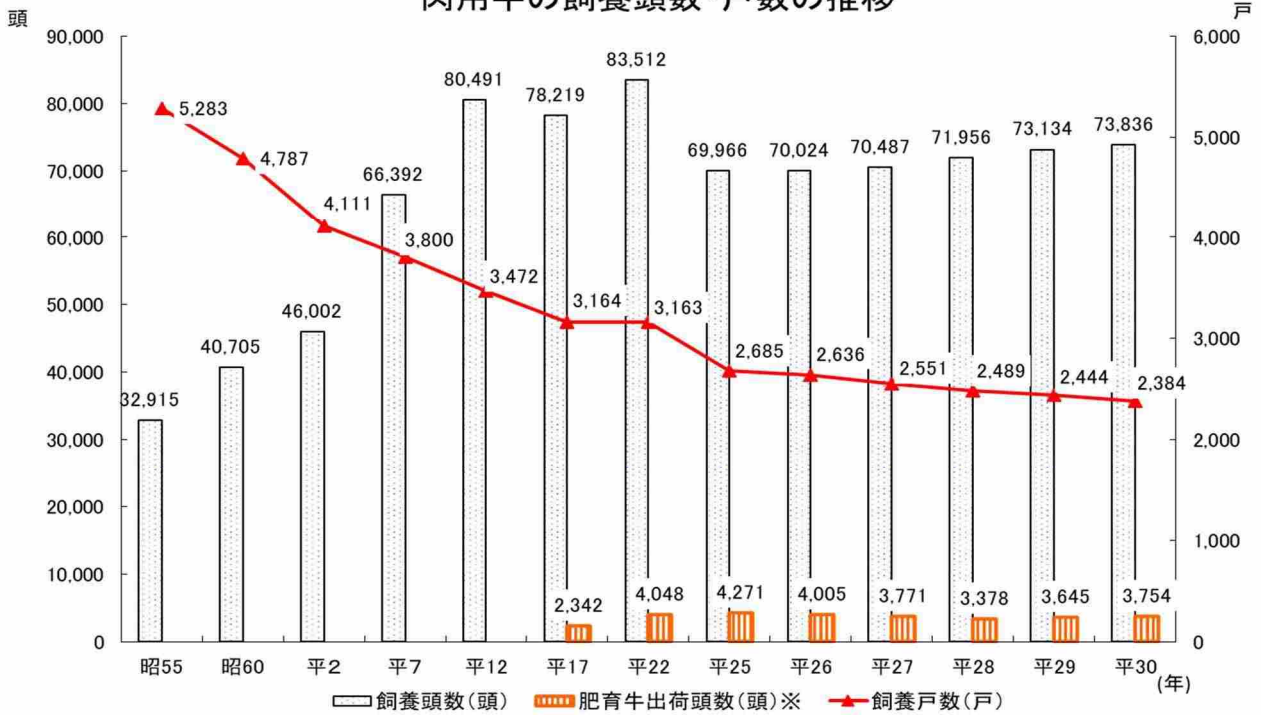
畜種	沖縄県の順位（上段）		
	飼養戸数	飼養頭羽数	一戸当たり
肉用牛	7位（2,470戸）	9位（73,600頭）	42位（29.8頭／戸）
全国 2,514,000頭 48,300戸	1位 鹿児島県(8,000) 2位 宮崎県(6,120) 3位 岩手県(4,560)	1位 北海道(524,500) 2位 鹿児島県(329,400) 3位 宮崎県(245,000)	1位 滋賀県(224.4) 2位 北海道(204.1) 3位 静岡県(163.7)
乳用牛	33位（69戸）	34位（4,190頭）	16位（60.7頭／戸）
全国 1,328,000頭 15,700戸	1位 北海道(6,140) 2位 岩手県(935) 3位 栃木県(725)	1位 北海道(790,900) 2位 栃木県(51,900) 3位 熊本県(42,800)	1位 三重県(145.9) 2位 北海道(128.8) 3位 大分県(100.0)
豚	5位（257戸）	13位（225,800頭）	39位（878.6頭／戸）
全国 9,189,000頭 4,470戸	1位 鹿児島県(535) 2位 宮崎県(449) 3位 茨城県(331)	1位 鹿児島県(1,272,000) 2位 宮崎県(822,200) 3位 北海道(625,700)	1位 青森県(4,550.6) 2位 島根県(4,522.2) 3位 広島県(4,029.6)
採卵鶏	25位（45戸）	28位（1,410千羽）	35位（26.5千羽／戸）
全国 184,350千羽 2,280戸	1位 愛知県(148) 2位 鹿児島県(130) 3位 千葉県(123)	1位 茨城県(14,011) 2位 千葉県(12,451) 3位 鹿児島県(10,968)	1位 青森県(204.1) 2位 岩手県(166.8) 3位 広島県(134.8)
ブロイラー	26位（16戸）	28位（684千羽）	25位（42.8千羽／戸）
全国 138,776千羽 2,260戸	1位 宮崎県(466) 2位 鹿児島県(365) 3位 岩手県(315)	1位 宮崎県(28,424) 2位 鹿児島県(26,743) 3位 岩手県(22,442)	1位 北海道(499.3) 2位 鳥取県(252.7) 3位 岡山県(132.3)

資料：農林水産省「畜産統計（平成30年2月1日現在）」

(1) 肉用牛

本県の肉用牛飼養頭数は、畜産クラスター事業や畜産担い手事業等による施設整備や草地整備、一括交付金事業や肉用牛経営安定対策補完事業等による繁殖素牛導入を行ったこともあり、平成26年より5年連続増加と好調を維持。また、繁殖雌牛、仔牛生産頭数及び仔牛出荷頭数は、継続して増加しており、今後も仔牛出荷が増加する要因が整っている。さらに、肥育牛においても「肉用牛肥育素牛導入支援事業」等による効果により、3年連続増加している。

肉用牛の飼養頭数・戸数の推移



資料：「12月末家畜・家さん等の飼養状況調査」県畜産課 * 肥育牛出荷頭数：(公社) 日本食肉格付協会「牛枝肉格付情報」(H15~)



H30 年度県共進会

(若手が団結して取り組み団体賞(肉用牛の部)を獲得した糸満市)

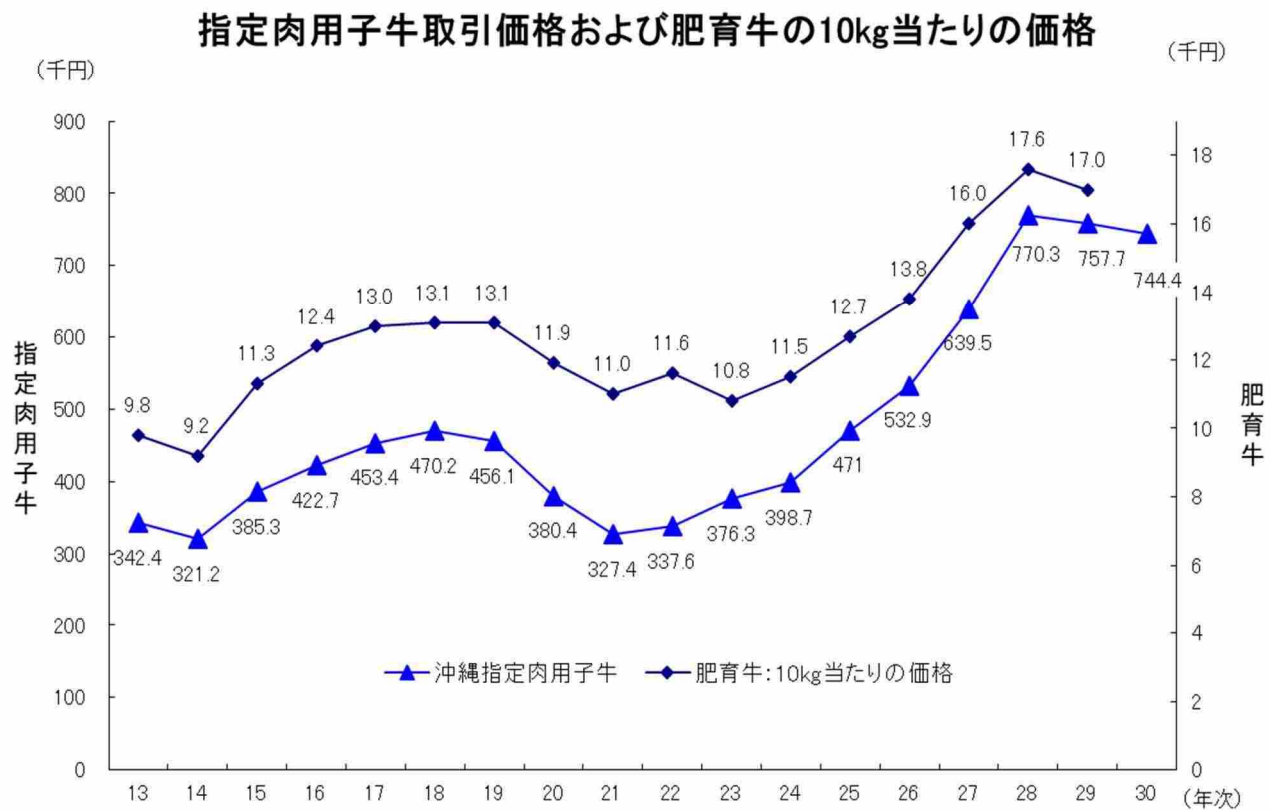
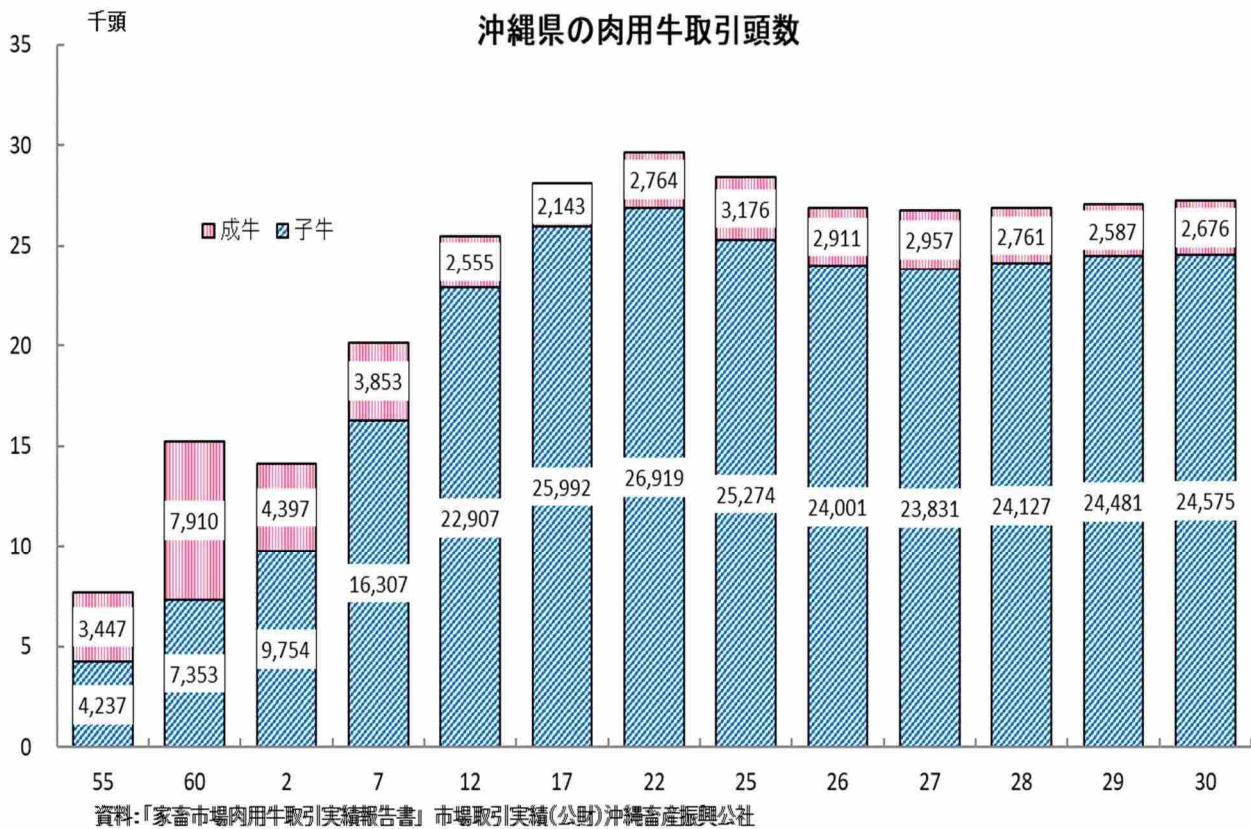


H31 年初セリ風景



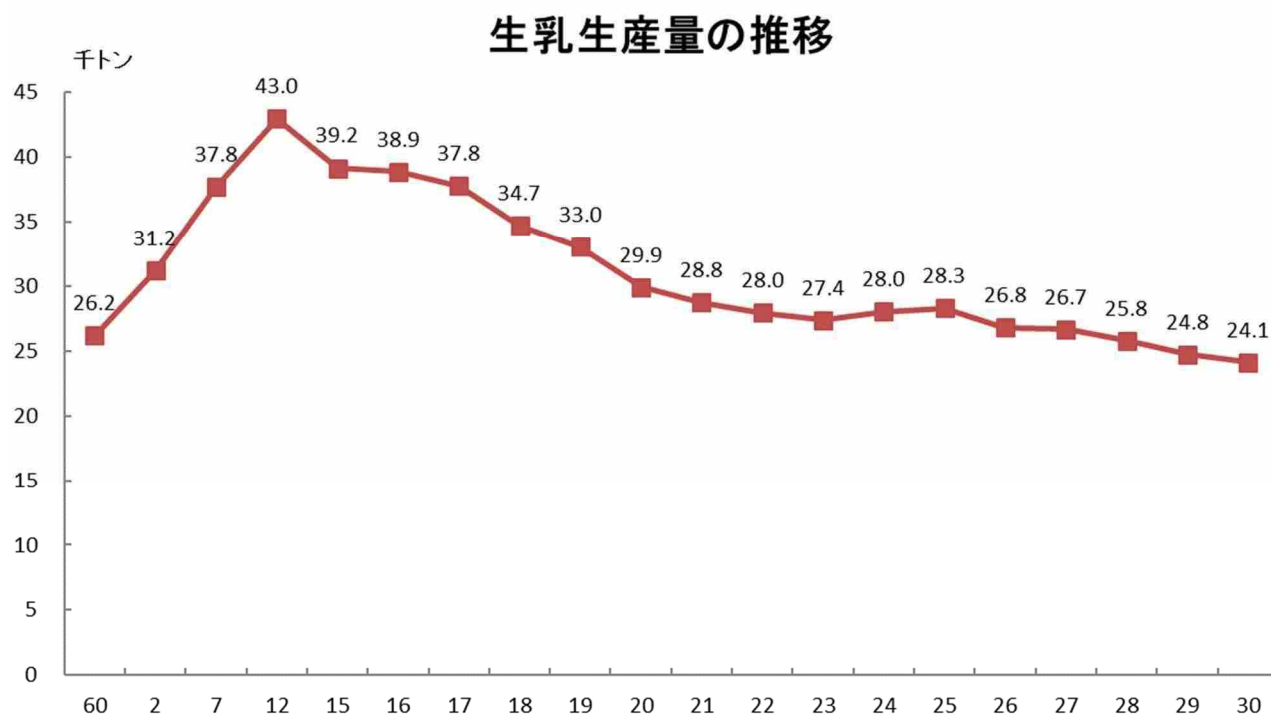
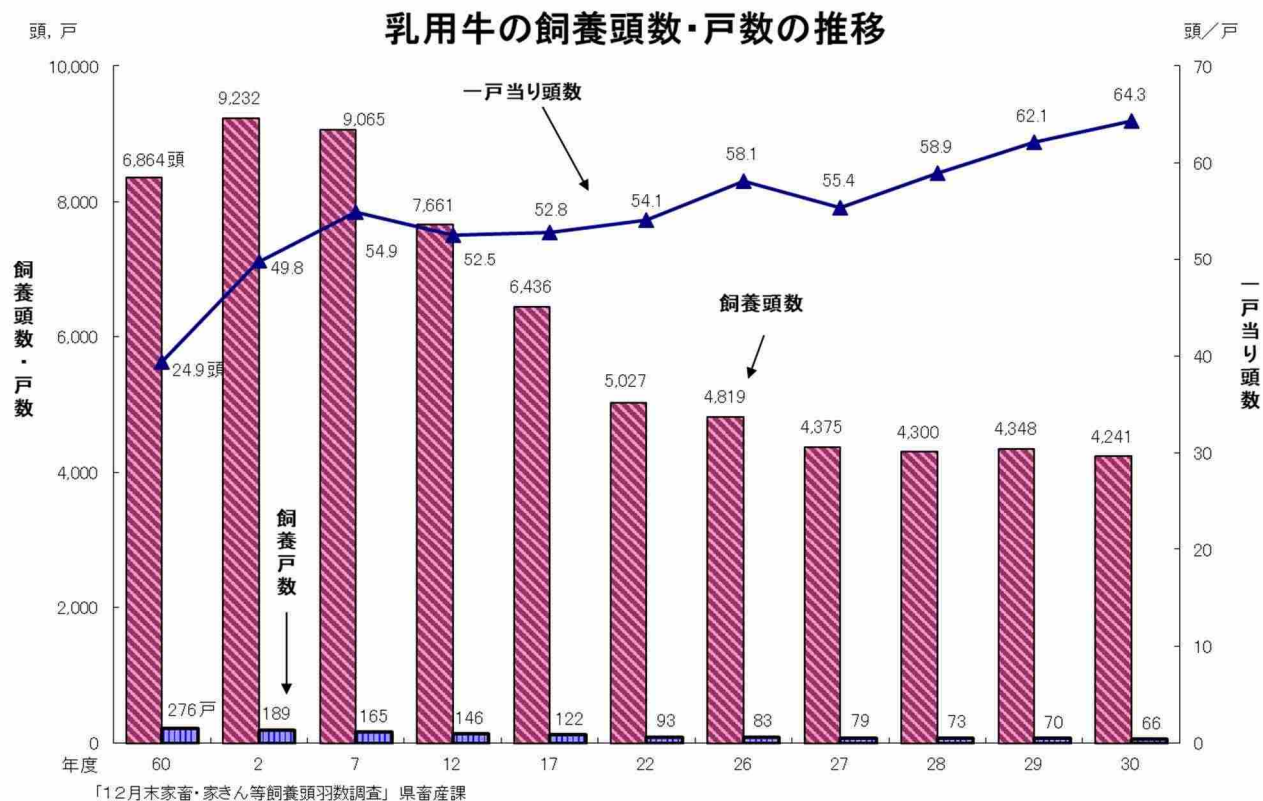
H30 年度県共進会

(繁殖雌牛の花形である肉用牛成雌2類での審査風景)



(2) 酪農

本県の酪農は、全国的な消費の低迷、飼料価格の高騰などにより、飼養戸数、飼養頭数ともに減少傾向で推移しております。後継牛確保においては、県内にある乳用雌牛を育成する家畜改良センターに育成牛を預ける頭数が増えており、乳用牛の県外導入から県内育成へ力を入れております。また、1戸当たりの飼養頭数が増えており、農家の規模拡大が進んでいる状況です。



牛乳需給状況の推移

項目	年次(1~12月)	平成8年	13年	18年	23年	25年	26年	27年	28年	29年	30年		
県	生乳生産量(t)A	37,221	41,367	34,724	27,360	28,281	26,797	26,682	25,812	24,758	24,118		
	生乳移入量(t)	259	199	825	683	323	389	935	833	782	1,003		
	生乳移出量(t)	11	1,481	1,271	51	99	154	101	68	32	0		
	用途別 処理量 (t)	飲用牛乳向け	35,515	38,621	32,798	27,560	28,709	26,934	27,396	26,475	25,440	25,061	
		乳製品向け	1,939	1,378	1,344	345	7	2	2	2	0	0	
		その他	15	86	136	120	129	114	118	100	68	60	
		処理量計	37,469	40,085	34,278	28,025	28,845	27,050	27,516	26,577	25,508	25,121	
	飲用牛乳 生産量 (kl)	牛乳	一般向け	25,404	23,181	20,243	15,801	17,142	16,257	16,707	15,822	15,298	14,789
			学校給食		6,769	6,522	6,707	6,725	6,598	6,554	6,534	6,493	6,500
			小計	25,404	29,950	26,765	22,508	23,867	22,855	23,261	22,356	21,791	21,289
		加工乳	一般向け	11,822	11,850	9,866	8,257	6,323	5,893	5,887	5,915	5,817	5,504
			学校給食	7,788	376	0	0	0	0	0	76	109	39
			小計	19,610	12,226	9,866	8,257	6,323	5,893	5,887	5,991	5,926	5,543
		合計	45,014	42,176	36,631	30,765	30,190	28,748	29,148	28,347	27,717	26,832	
		移入量(kl)	314	415	388	830	861	833	823	862	988	1,343	
消費量(kl)B	45,328	42,591	37,019	31,595	31,051	29,581	29,971	29,209	28,705	28,175			
生乳自給率 A/(B×比重:1.031)	79.6%	94.2%	91.0%	84.0%	88.3%	87.9%	86.3%	85.7%	83.7%	83.0%			
乳飲料生産量(kl)	6,084	6,474	8,858	8,705	11,333	11,058	10,741	10,201	10,750	10,535			
1人当たり飲用牛乳消費量(l)	35.3	32.0	27.0	22.8	21.9	20.7	20.9	20.2	19.8	19.4			
全国	生乳生産量(t)	8,656,929	8,301,523	8,133,907	7,473,607	7,454,201	7,334,496	7,379,224	7,393,715	7,280,873	7,292,520		
	用途別 処理量 (t)	飲用牛乳向け	5,186,482	4,941,499	4,645,366	4,057,612	3,974,328	3,910,995	3,932,865	3,991,814	3,979,341	4,000,189	
		乳製品向け	3,351,084	3,266,285	3,407,370	3,350,651	3,476,590	3,364,698	3,389,816	3,349,245	3,251,921	3,243,465	
		その他	119,363	92,686	81,171	65,344	57,283	58,903	56,543	52,656	49,611	48,866	
		処理量計	8,656,929	8,300,470	8,133,907	7,473,607	7,508,201	7,334,596	7,379,224	7,393,715	7,280,873	7,292,520	
	飲用牛乳 生産量 (kl)	牛乳	4,222,023	3,875,298	3,702,308	3,062,688	3,030,542	2,988,641	3,005,470	3,049,421	3,088,740	3,141,864	
		加工乳	826,717	575,604	439,135	588,636	475,829	467,288	450,727	441,271	440,078	413,736	
		合計(消費量)	5,048,740	4,450,902	4,141,443	3,651,324	3,506,371	3,455,929	3,456,197	3,490,692	3,528,818	3,555,600	
	飲用牛乳 等生産量 (kl)	乳飲料生産量(kl)	1,027,759	1,231,267	1,244,009	1,275,825	1,366,426	1,330,001	1,305,241	1,236,298	1,177,231	1,121,273	
		発酵乳生産量(kl)	534,931	685,281	838,833	65,246	1,809,038	1,000,391	1,051,077	1,104,913	1,076,039	1,067,426	
		乳酸菌飲料生産量(kl)	207,582	176,085	166,446	12,953	157,298	143,316	148,340	140,011	128,721	125,550	
	1人当たり飲用牛乳消費量(l)	40.1	35.0	32.4	28.6	27.5	27.2	27.2	27.5	27.9	28.1		

(注1) 飲用牛乳の消費量には、加工乳も含まれる。

(注2) 値は農林水産省「牛乳乳製品統計」から転記。飲用牛乳1人当たり消費量については、平成19年までは「日刊酪農乳業速報」より、平成20年以降は12月1日付県推計人口数で除した数値

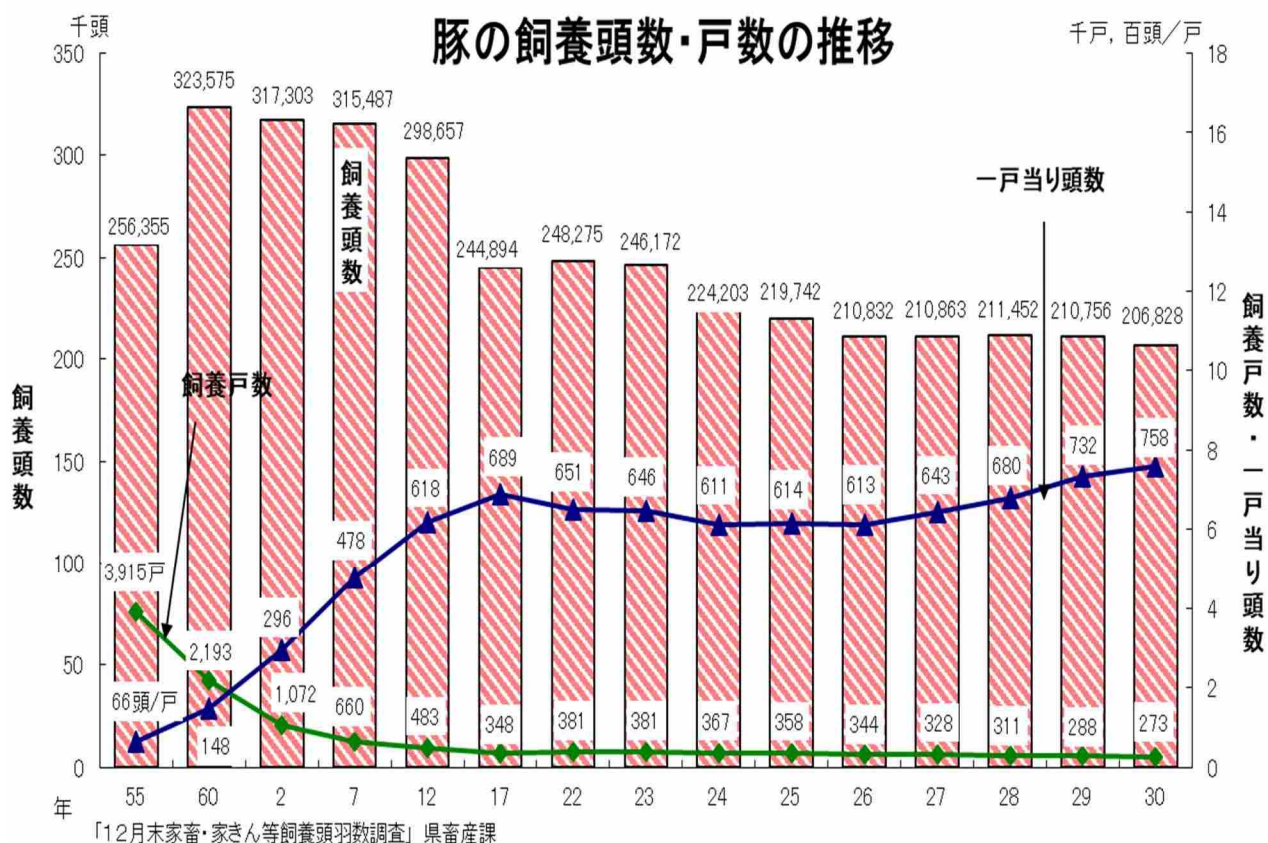


父の日には牛乳(ちち)を贈ろう！キャンペーンによる副知事への県産牛乳贈呈式

(3) 養豚

本県の豚の飼養頭数は、環境問題、担い手不足等の諸問題から、飼養戸数および頭数の微減が続いており、1戸あたりの飼養頭数や県内豚「と畜」頭数においては、連続傾向にある。

沖縄県では、「沖縄養豚獣医療体制整備事業」の衛生対策向上の取組や「おきなわブランド豚増頭体制確立事業」による生産性の高い繁殖母豚供給体制の確立への取組により1母豚あたりの肉豚生産頭数の増頭の効果もあり、県内養豚は生産性向上が図られ堅調な傾向である。

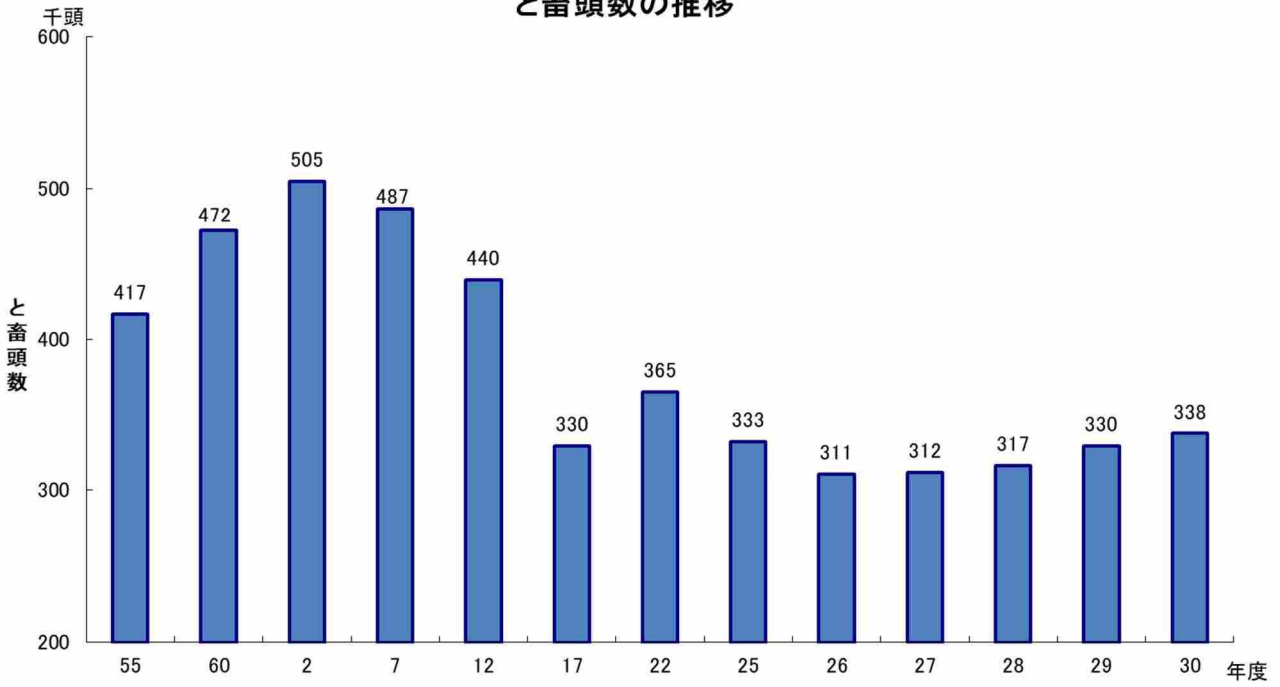


沖縄アグー豚



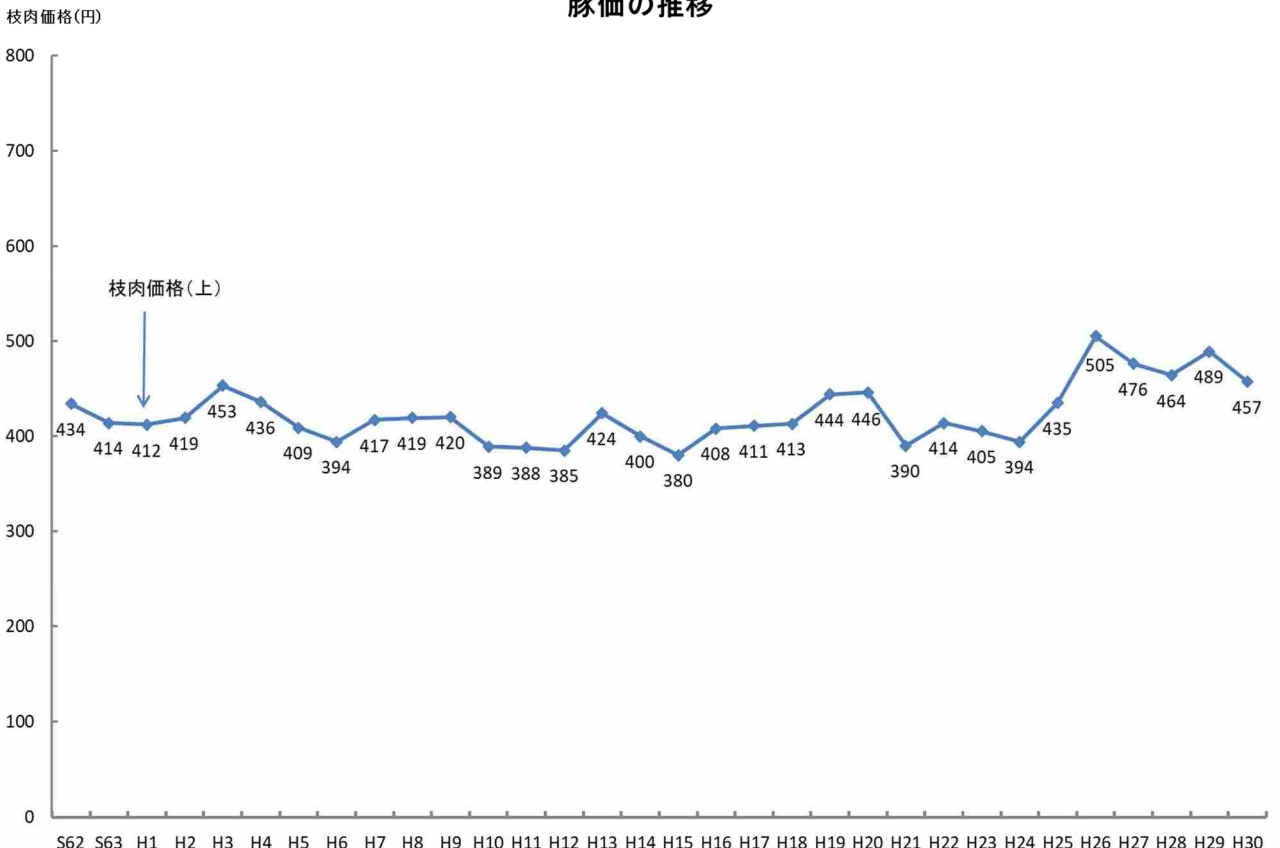
おきなわアイランド

と畜頭数の推移



と畜頭数: 沖縄県保健医療部 衛生薬務課

豚価の推移



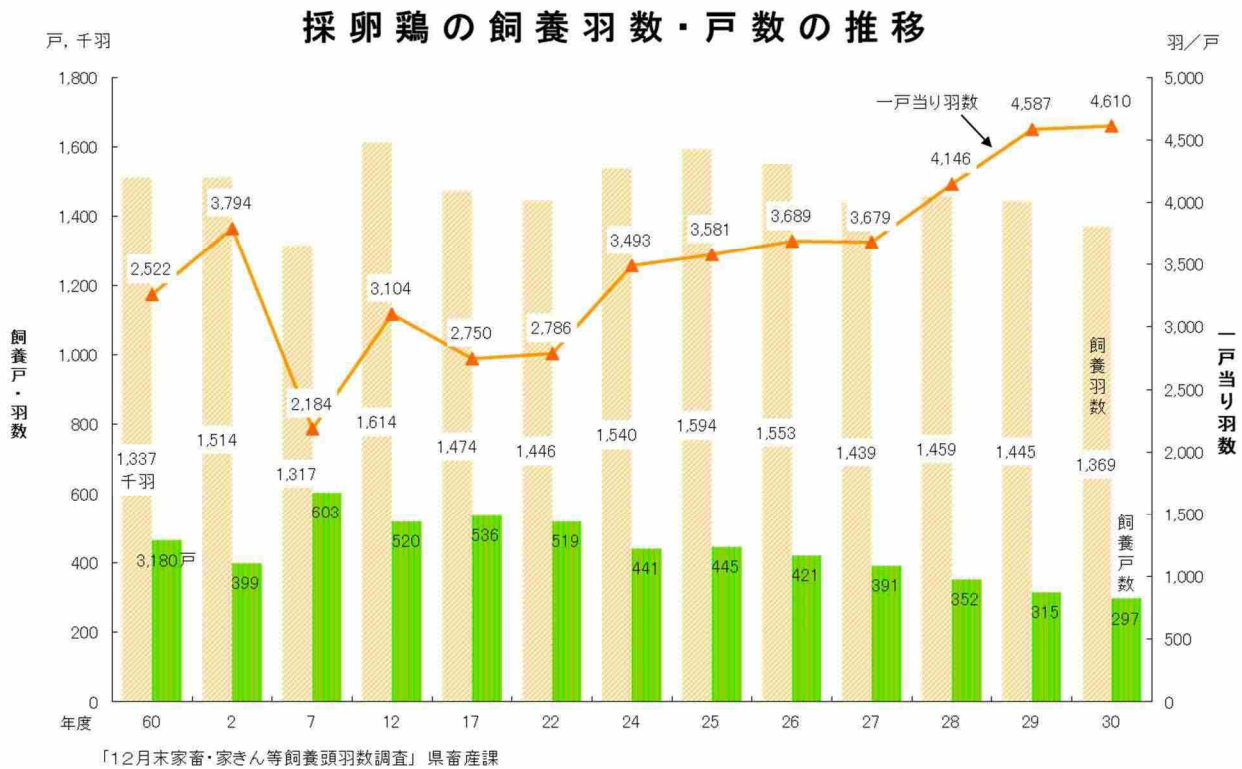
枝肉価格: (公財) 沖縄県畜産振興公社資料

年度

(4) 養鶏

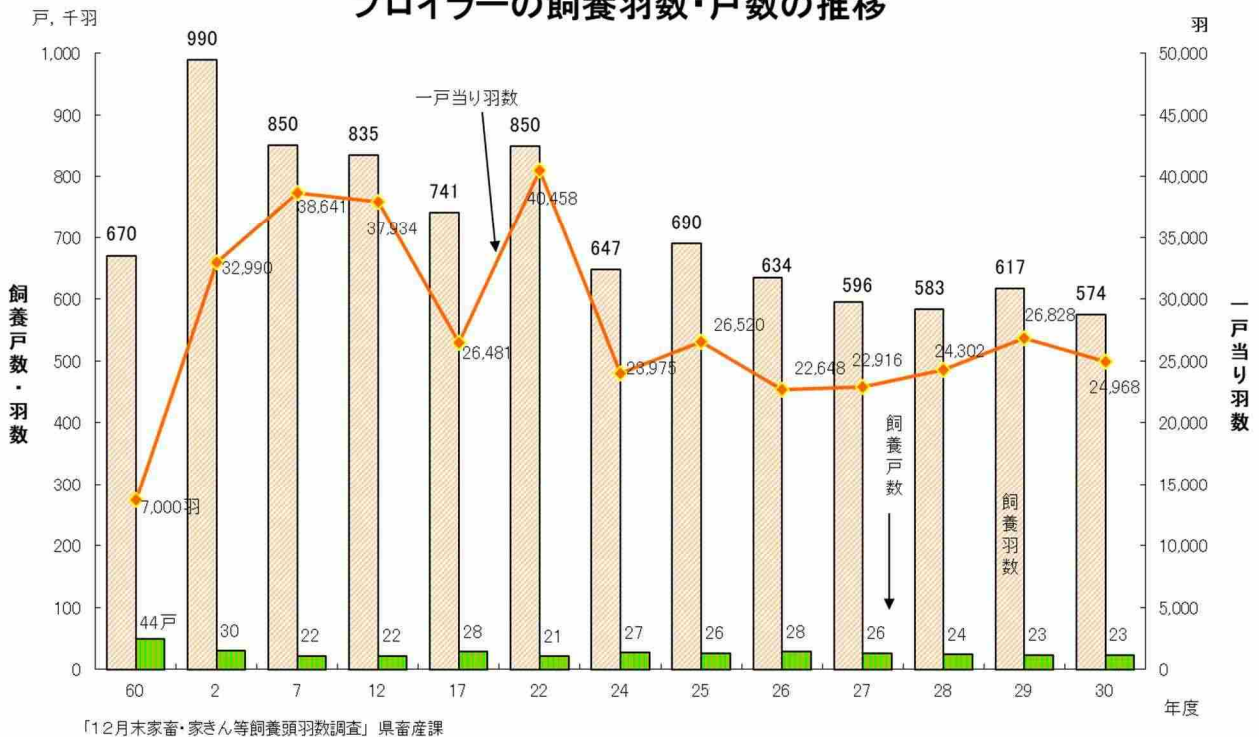
近年、採卵鶏の飼養戸数は減少しているが、飼養羽数は安定しており、鶏卵の生産量は、約20,000tで、安定した供給体制が図られている。

沖縄県養鶏協会は、県産たまごの消費拡大促進と養鶏農家の経営安定を図るため、8月9日を「エッグの日」として制定し、県産たまごの消費拡大イベントを行っている。

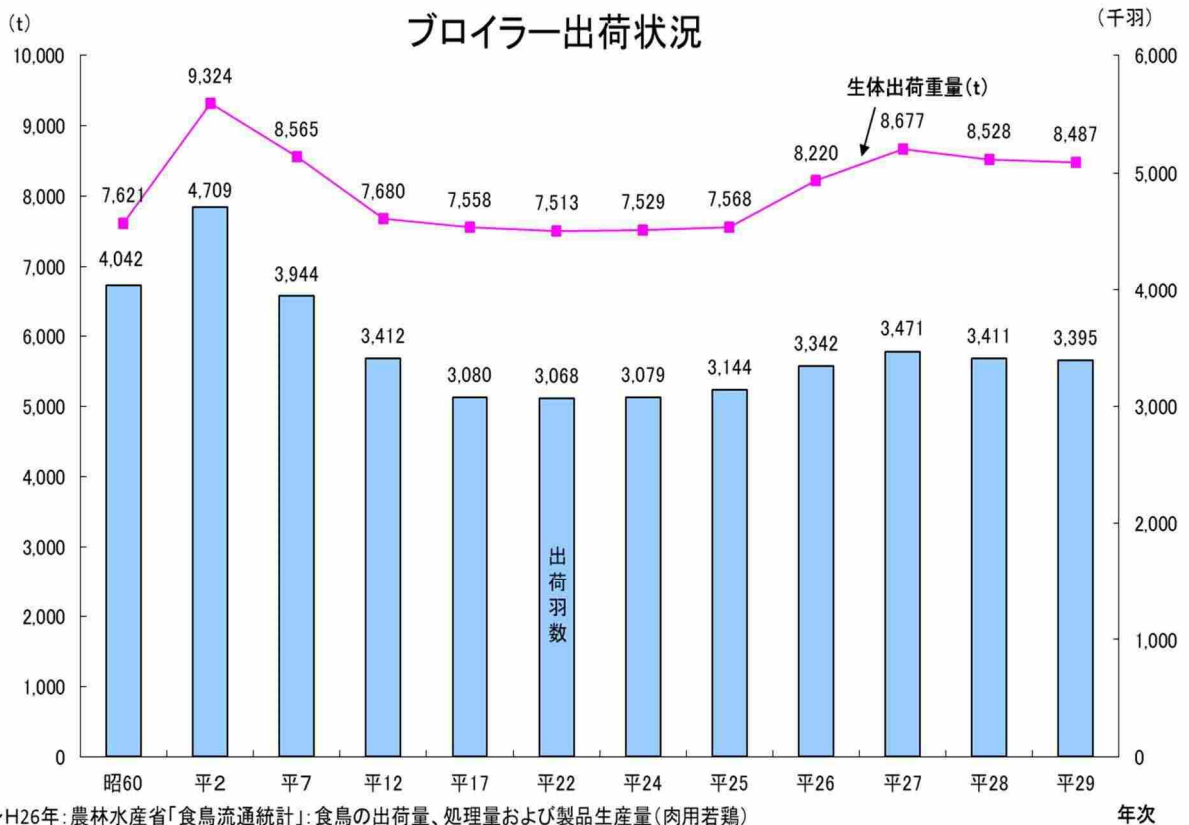


ブロイラーは、主に沖縄本島北部地域で生産されており、県全体で約 60 万羽が飼養されている。また、生産した鶏肉は、ほとんどが県内向けに出荷されている。

ブロイラーの飼養羽数・戸数の推移



ブロイラー出荷状況



～H26年：農林水産省「食鳥流通統計」：食鳥の出荷量、処理量および製品生産量（肉用若鶏）
H27年～：食肉衛生検査所事業概要から算出

